

大型バラ端子用手動圧着工具

Hand crimping tool

取扱説明書



1. ご使用前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
2. 通電している電線を圧着しないでください。
3. ハンドルを操作する時、指等を挟まないでください。

MinebeaConnect

目次

取扱上の注意点

1. 概要
2. 仕様
3. 各部の名称
4. 圧着作業
5. 工具の手入れ

適用工具一覧

シリーズ Series	注文品番 Ordering No.	適用端子 Applied Terminal	
CJ01	F 1 - C J 0 1 C 5 - 6 0 1 0 A	CJ01C5-010A	CJ01C6-010A
	F 1 - C J 0 1 C 5 - 6 0 2 0 A	CJ01C5-020A	CJ01C6-020A
	F 1 - C J 0 1 C 5 - 6 0 3 0 A	CJ01C5-030A	CJ01C6-030A

取扱上の注意点

- (1) 指定の端子および電線以外の物を圧着しないでください。正しいクリップ高が得られないばかりでなく、工具損傷の原因にもなります。
※端子番号、使用電線サイズ等は工具に刻印されています。
- (2) 端子の位置決めブロック内に異物が詰まっていると圧着位置ずれの原因となります。
作業開始前に、位置決めブロック内に異物が無いことを確認して使用してください。
- (3) 圧着操作の途中でハンドルを開くことはできません。ラチェットが解除されるまで握りしめてください。
- (4) 落としたり、叩いたりして工具に衝撃を与えないでください。
- (5) 他の機械器具に装着し、その力を利用して圧着したり、無理にハンドルを開いたりしないでください。
この工具は、人の握力を前提に設計されています。
- (6) 工具を分解しないでください。万が一不具合が生じたときはご相談ください。
- (7) この工具は、試作・補修用の手動工具です。正規には当社アプリケーション・圧着機をご使用願います。
- (8) ラチェットが摩耗してくると、ダイスタッチ前にハンドルが開き適正な高が得られない場合があります。

1. 概要

この手動圧着工具は、住鋳テックが販売する端子を圧着するための専用工具です。工具の機能を正常に保持し、正しい圧着作業を行って頂くため、工具のご使用は、この取扱説明書に基づいて行うようお願いいたします。

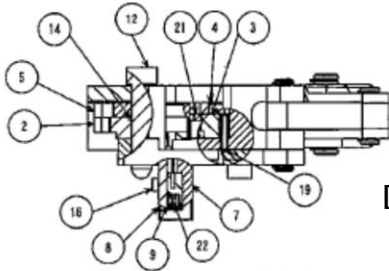
2. ハンドル仕様

工具重量	850g
適合電線	3sq以下
適合端子板厚	0.4mm以下
適合端子バレル全長	10mm以内
ハイト調整	なし（ダイスタッチ）

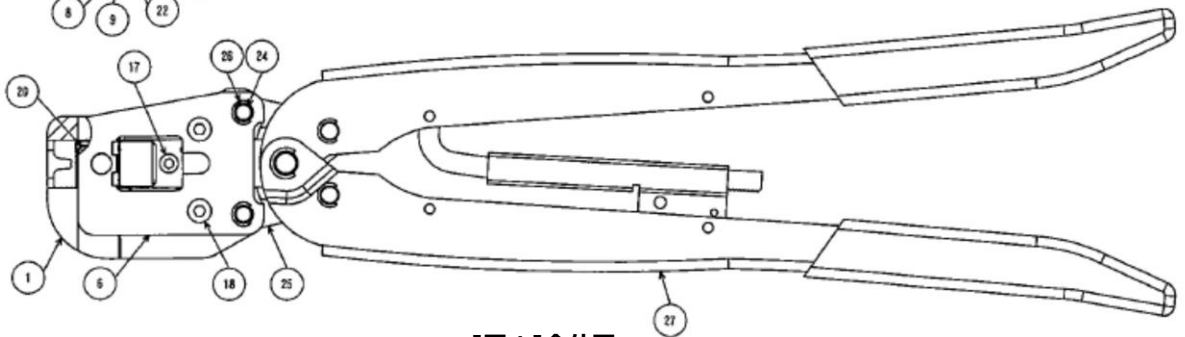
※適合電線については、各端子の圧着仕様書をご確認ください。

3. 各部の名称

2	ワイヤークリンパー	7	ロケータ
3	ワイヤーアンビル	8	
4	インスレーションアンビル	9	
5	インスレーションクリンパー	12	ロックピン



[図2]刃型部上面図



[図1]全体図

4. 圧着作業

4-1. クリンパー（圧着刃）の選定

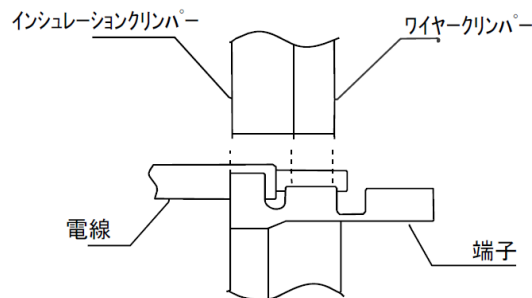
- (1) ロックピンを抜き、クリンパーを本体より取り外します。
- (2) クリンパーには、使用電線サイズが刻印されていますので、使用する電線サイズに適合したクリンパーを選定し、クリンパーを再度ロックピンにて組付けます。
※クリンパーの刻印面はアンビル刻印面と一致していることを確認してください。

4-2. 圧着手順

- (1) 工具のハンドルをラチェットが解除されるまで握り、ハンドルを開きます。
- (2) 端子をクリンパー側にセットします。
※ロケーターの端子位置決めに突き当たる位置まで挿入してください。
- (3) 次にハンドルを軽く握り、圧着部で端子を保持する程度で止めてください。
※加締め過ぎると電線の挿入ができなくなります。
- (4) 被覆を剥いた電線を端子に挿入します。芯線が端子のワイヤーバレルの前端位置より
1. 0～2. 0 mm程度出るように挿入してください。
- (5) 端子に挿入した電線が抜けないように保持しながらハンドルを締め、閉じていきます。
- (6) 端子と電線がある程度加締め、刃型部から抜けられないようになったら両手でハンドルをラチェットが解除されるまで握り締めます。
- (7) ハンドルを開き、加締められた端子を取出し、圧着外観、クリンプハイト、ベルマウスの確認をしてください。

(注1) ベルマウスは、端子を刃型にセットした前後位置で変わります。

(注2) 深打ち、浅打ちは、端子に対する電線の挿入深さと、被覆剥ぎ長さで変わります。



5. 工具の手入れ

- (1) 作業終了時に必ず清掃してください。黒染め部はタービン油を染み込ませた柔らかい布で拭いてください。刃型部はエアガン等を利用し、ゴミなどを取り除いてください。
- (2) 摺動箇所やピンの部分は、必要に応じて防錆潤滑剤を少量吹き付けてください。
- (3) 長い間使用しない場合は、工具全体に軽く油を塗布し、防錆紙か布等に包んで乾燥した場所に保管してください。